

土佐ブントンの幼果を加害するホソバチビハマキ

川 村 満
(高知県植物防疫協会)

A Tortricid, *Lobesia aeolopa* MEYRICK attacking young fruits of *Citrus grandis* OSBECK forma *Tosa - buntan*. by Mitsuru KAWAMURA (Kochi Plant Protection Association, Kochi Prefectural Government, Kochi, 780)

は じ め に

土佐ブントンの幼果を加害する小蛾の幼虫では、一般にチャハマキ、コカクモンハマキ類が知られている。しかし、いずれもやや肥大した果実での被害が多い。筆者は、落花まもない幼果を加害する小蛾が毎年発生するので、これを飼育、羽化させて、前2種とは異なり更に小型の種を得た。この種はブドウ、キクなどで被害の知られている(奥野, 1978; 上住, 1986)ホソバチビハマキ(*Lobesia aeolopa* MEYRICK)であると奥 俊夫氏により同定された。また、カンキツ類の被害記録がない、ということであったので、ここに報告しておく。

種の同定を戴いた奥 俊夫氏に改めて御礼申し上げる。

被害と成幼虫の発生

土佐ブントンへの産卵時期は不明ではある。

幼虫の発生を確認した時期は、開花後、小さい幼果が一部認められ、つぼみや、開花中の花の残っている時期である。土佐ブントンは4月下旬から5月下旬にかけて開花し、開花最盛期は5月2半旬頃である。従って、幼虫の発見されるのは4月上旬以降の場合が多い。そして、果実が2~3cm位になる6月中旬頃までは認められるが、それ以降は認められなかった。

標本で確認した個体のステージと日付を下記に示しておく。

幼虫: 1990 V 28, VI 5, 10

蛹: 1990 VI 1, 10

羽化: 1982 VII 10, 12, 1983 VI 6, 1990 VI 10, 11, VII 2

若令幼虫は淡褐色であるが(写真No.4), 老令幼虫は暗褐色で10mm内外であり、体表に黄色の斑点が認められる(写真No.3)。

幼虫は落花まもない幼果のがくと幼果部に糸を張って、幼果を固定し(写真No.3, 5), 幼果とがくの間で生活している場合が多い。また、落花して葉上や花房の間で黒変している花卉を綴り合わせて、この中で生活している個体も認められる。食害はおもに幼果と思われ、葉の被害は認められなかった。

幼果とがくの間で生活している幼虫はがくの内側や、果実の一部を食害しているものが多く、幼果とがくを取り外すと被害がよくわかる(写真No.8)。幼果での被害はがくと接している部分のほか、がくに近い果面に食入する場合や、他の果実と接している面、または、古い残存花卉などと接している面でも食害を受ける(写真No.8)。被害を受けた多くの幼果は落果するが、被害の軽いものは発育して残る(写真No.9)。

蛹化は果実とがくの間で行なわれる事が多いが（写真No.2），花房や葉上で落花して枯死した花卉を綴りあわせて行なうこともある。

お わ り に

発生確認地点は高知市の朝倉，横浜，長浜の3ヶ所であり，土佐ブントン以外のカンキツ類では，現在までのところ確認できていない。

幼果上の被害は前述したが，被害による落果程度と，落果しなかった被害果の経過については，今後調査をする予定である。

引 用 文 献

- 奥野孝夫（1978）：ブドウの果房を加害する鱗翅目害虫．今月の農薬，22（10）：114～116．
上住 泰（1986）：キクの害虫．作物病害虫ハンドブック，養賢堂：1180～1188．

写 真 説 明

- 1：成 虫
- 2－a：蛹
- 2－b：萼内で蛹化した蛹
- 3－a：老令幼虫
- 3－b：萼内の老令幼虫
- 4：若令幼虫
- 5：幼果と食害虫の幼虫（6月上旬）
- 6：幼果と萼に糸をかけた状況（6月上旬）
- 7：幼果の食害痕（6月上旬）
- 8－a：幼果の被害（6月上旬）
- 8－b：同 上
- 8－c：同 上
- 9－a：落果しなかった被害果（6月下旬）
- 9－b：同 上
- 9－c：同 上

